

令和3年7月31日

砺波医師会誌

杏和だより

第214号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔時 評〕 ・— コロナ禍と東京五輪開催論議と世間 —	河合 博志	2
〔砺波医師会役員〕		4
〔活動報告〕		6
〔追 悼〕 ・今は亡き、福井悟先生を偲んで	河合 康守	9
・金木精一先生を悼んで	仲村 洋一	10
・安念有聲先生を偲んで	杉本 立甫	11
〔散 居 村〕 ・「コロナ雑感」	住田 亮	12
・砺波での20年	高木 泰孝	13
・新しい生活様式	高橋 暢人	14
・難読漢字にチャレンジ	高橋三千代	15
・13代目市川団十郎襲名	瀧 鈴佳	16
・肉食於朝食	田邊 望	17
・『肛門外科医のハッキョイ2』	田畑 敏	18
・最近思うこと。	津田 博	19
・2020東京オリンピック	津田 恵	20
・老後の趣味	寺畑信太郎	21
〔新入会員紹介〕	いなむら内科 稲邑 克久	23
〔編集後記〕	柳澤 伸嘉	24

発行所 砺波市幸町6番4号

公益社団法人 砺波医師会

発行人 砺波医師会長 藤 井 正 則

— コロナ禍と東京五輪開催論議と世間 —

市立砺波総合病院

院長 河 合 博 志

この原稿を書いている令和3年7月7日の時点で東京オリンピック・パラリンピックの開催まで17日となりました。開催をめぐっては賛否が分かれて厳しい非難の声を聞くこともあります。印象的だったのはオリンピックについてインタビューを受けた小学生の女の子。「オリンピックについては話すのが怖い雰囲気。賛成の人も反対の人もいるので自分の意見を言えない。」と。これはまさに日本の本質についているなと感じました。ドイツの若き哲学者マルクス・ガブリエルは冷静に議論ができない日本人と言います。日本人のコミュニケーションは互いに意見が対立したとき、他の地域とはずいぶん異なる特異なやり方でマネジメントすると彼には映ります。正反対の意見がある二人は、どちらが正しいのかを決めるための冷静な対話に入るべきところが、怒声を浴びせあう人格攻撃論法になるというのです。また、BBCニュースでも「東京五輪、国民が支持を表明しにくい日本」のタイトルで同様な指摘が見られます。

なぜそうなのでしょう。日本は同調圧力が強い社会、異論の許されない社会とよく言われます。意見の対立は二つのグループや個人の間にあるのではなくて、「世間が許さない！」というようにひとつの意見が世間という何やら恐ろしく力を持ったものを背景にして迫ってくるかのようです。この人は何故この人の意見に私が従わなければいけないと信じているのだろうか？自分が世間と思っているのかと感ずることがありませんか。それでは世間とは何でしょう。「日本世間学会」というものがあります。法学者・評論家の佐藤直樹さんが1998年九州工業大学の教授であったときに立ち上げた学会です。佐藤さんによると、「世間」の特徴は「個人の消去」「贈与・互酬の関係」「固定した身分と平等主義」「高い同調圧力」であり、排除と包摂という相反する性質で日本社会を支配してきたと言います。現在のコロナ禍では「世間」の排他性が増すまま強まっていることが日本をさらに息苦しくしているそうです。我が国の「隠された構造」であり、日本人の存在の基盤・実存をなしている「世間」に光を当てるのが学会の目的です。コロナ禍においてはこの「世間」はどう働いているのでしょうか。この6月26日には日本世間学会、第44回研究大会で「コロナ禍と世間」シンポジウムが催され、佐藤直樹さんの基調講演『新型コロナ禍と「世間」』がありました。ぜひ聞きたいところでした。できれば、砺波にもご講演に来ていただきたいものだと考えています。

さて、それでは「世間」が日本を支配するようになったのはいつからか、そしてどのようにしてなのか？世界の他の国々には「世間」はあるのか？そんな疑問には既に故人ですが、元一橋大学学長の阿部謹也先生が中世ヨーロッパ史との比較から日本の「世間」の形成とヨーロッパとの比較をライフワークとして研究出版されています。先生の著作「世間とはなにか」「近代化と世間」はとても興味深く読むことができました。河合隼雄先生が指摘した「母性社会日本の病理」も世間の特徴を全て包み込む（包摂）か排除かという母性的な特徴として捉えたものだと感じながら読みました。

ちょうど読み終わった、佐藤直樹さんと劇作家・演出家の鴻上尚史さんの対談「同調圧力・日本社会はなぜ息苦しいのか」では、21世紀に入って格差拡大、SNSの発達とともに変質・強化してきた「世間」がこのコロナ禍で暴走し始めたと言います。「自己責任」、「正義」をふりかざした攻撃、「自粛警察」に見られる同調圧力、「他県ナンバー狩り」のような排他性、感染した人に謝罪させる不寛容な風潮、そんな息苦しさが加速している今の日本の状況を「世間」をキーワードに説明しています。「世間」を変えることはできないにしても、「世間」を知ることとで少し気持ちが軽くなることを狙ったそうです。知機心自問ですね。冒頭の小学生の女の子も「世間」の同調圧力に苦しんでいるのでしょうか。そんなことを考えつつ、オリンピックや夏休みの行楽シーズン後に新型コロナ禍の再拡大・第5波が来ないことを祈っています。



砺波医師会役員

藤井会長

山下副会長

① 砺波医師会担当業務
(令和5年6月まで)

② 富山県医師会担当業務
(令和5年6月まで)

監 事			理				事			副会長						
伏木 弘	豊田 葉子	住田 亮	高橋 暢人	津田 博	河合 博志	佐藤 伸彦	網谷 茂樹	佐藤 重彦	大澤 謙三	山下 良平						
② 社会保険	① 広報・ネットワーク	② 乳幼児・学校保健	② 産業保健・健康スポーツ 特定健診・がん検診	① 産業保健・防災 特定健診・特定保健指導、地域保健	② 広報・ネットワーク ① 広報・男女共同参画	② 勤務医部会	① 病診連携、地域保健	② 在宅・福祉・介護 在宅医療支援センター協議会	① 在宅医療、介護保険 保険診療部会	② 学校心臓検診	① 庶務・会計・記録 准看護学院 ワクチン	② 救急医療	① 救急医療・急患センター	① 在宅医療	② 学術・生涯教育 病診連携、在宅医療	① 学術・生涯教育 病診連携、在宅医療

議 長	山本 郁夫	副 議 長	山下 泉
顧 問	河合 康守	仲村 洋一	
裁 定 委 員	吉田康二郎	伏木 弘	坂下 泰雄

役 職 名	氏 名
富山県医師会理事	河合 晃充
富山県医師会裁定委員	山本 郁夫
富山県医師会代議員	藤井 正則・山下 良平
富山県医師会予備代議員	大澤 謙三・網谷 茂樹
富山県医師国民健康保険組合組合会議員	網谷 茂樹
富山県医師信用組合理事	網谷 茂樹
富山県医師協同組合理事	藤井 正則
富山県医師協同組合総代	伏木 弘・金井 正信
	柳下 肇・豊田 葉子
富山県医師連盟執行委員（支部長）	藤井 正則
富山県医師連盟執行委員	河合 晃充

【関係団体委員等】

【砺波市】

役 職 名	氏 名
砺波市訪問看護事業運営委員(4名)	藤井 正則、 佐藤 重彦
	山下 良平、 佐藤 伸彦
砺波市健康づくり推進協議会委員	高橋 暢人
砺波市障害支援区分判定等審査会委員(2名)	福井 靖人、 山下 良平
砺波市歯科保健推進協議会委員	大澤 謙三
砺波市防災会議委員	藤井 正則
砺波市国民保護協議会委員	藤井 正則
砺波市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク運営委員	佐藤 伸彦
砺波市国民健康保険運営協議会委員	藤井 正則、 佐藤 重彦

【市立砺波総合病院】

役 職 名	氏 名
肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会委員	稲邑 克久

【砺波広域圏関係】

役 職 名	氏 名
砺波救急医療・消防連携協議会参与	藤井 正則
砺波地域メディカルコントロール協議会委員	佐藤 重彦

【砺波地方介護保険組合】

役 職 名	氏 名
砺波地方介護保険推進委員会委員	山本 郁夫
地域包括支援センター運営協議会委員	山本 郁夫
介護認定審査会委員（8名）	坂下 泰雄、 金木 昌弘
	楨本 伸哉、 若松 伸彦
	金田 学、 那須 渉
	川渕奈三栄、 澤田 樹佳

【富山県砺波厚生センター】

役 職 名	氏 名
富山県砺波厚生センター運営協議会委員	藤井 正則
砺波地域医療推進対策協議会委員	藤井 正則
砺波地域医療推進対策協議会部会委員 がん・在宅医療	山下 良平
心血管疾患(急性心筋梗塞)	網谷 茂樹
地域災害医療連携会議委員(災害医療)	佐藤 重彦
糖尿病対策推進強化事業連絡会議委員(糖尿病)	大澤 謙三
地域・職域連携推進協議会委員(地域・職域)	藤井 正則
肝炎ウイルス検診後フォロー体制検討会委員(肝炎)	高橋 暢人
感染症診査協議会委員	山下 良平

【富山県】

役 職 名	氏 名
富山県医療審議会委員	藤井 正則
富山県医療対策協議会委員	藤井 正則
富山県透析患者等発生予防推進事業連絡協議会委員	大澤 謙三
富山県透析患者等発生予防推進事業ワーキンググループ委員	山下 良平

活動報告

(令和2年11月～令和3年6月まで)

令和2年11月

- 5日 学術・生涯教育委員会（県医）
- 9日 第9回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 18日 教育支援委員会
- 20日 砺波市要保護児童対策地域代表者会議
- 26日 令和2年度砺波医療圏結核予防医師研修会
「管内の結核の現状について」
富山県砺波厚生センター 所長 垣内 孝子
「日常診療で肺結核を見逃さないために～当院の事例から～」
金沢医科大学氷見市民病院 副院長・呼吸器内科医長 井口 晶晴

令和2年12月

- 2日 砺波地域医療推進対策協議会 心血管疾患部会
- 3日 社会保険医療担当者の個別指導
- 4日 在宅・福祉・介護委員会（県医）
- 8日 砺波地域災害医療連携会議
- 14日 第10回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 23日 砺波市福祉計画策定委員会
- 24日 砺波地域医療推進対策協議会 がん・在宅医療部会

令和3年1月

- 5日 社会保険委員会（県医）
- 13日 社会保険医療担当者の個別指導
- 18日 第11回理事会
- 23日 令和3年度砺波准看護学院一般入試
- 28日 砺波准看護学院令和3年度一般入試合否判定会議・運営理事会

令和3年2月

- 3日 県・郡市医師会協議会
- 8日 第12回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 9日 砺波准看護学院入試合格発表
- 22日 新型コロナ住民接種説明会
- 24日 糖尿病対策地域連携連絡会

令和3年3月

- 1日 県・郡市医師会協議会
- 2日 産業保健・健康スポーツ委員会（県医）
- 4日 第55回砺波准看護学院卒業式
- 8日 第13回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 11日 令和2年度富山県肝炎診療協議会
- 15日 県・郡市医師会協議会
- 16日 第152回富山県医師国民健康保険組合通常組合会
- 17日 令和2年度肝炎ウイルス検診後フォロー体制検討会
- 23日 令和2年度「地域から医療・福祉を考える会」
- 24日 令和2年度第1回臨時社員総会
- 25日 第202回富山県医師会臨時代議員会
- 26日 「診療支援センター」（新発熱外来）開所式
- 29日 富山県医療審議会・富山県医療審議会地域医療構想部会・
富山県医療対策協議会

令和3年4月

- 8日 第57回砺波准看護学院入学式
- 12日 第1回理事会
- 16日 令和3年度地域医療・保健事業懇談会
- 21日 第1回選挙管理委員会（県医）
- 23日 新型コロナウイルスワクチン個別接種実施に向けての説明会

令和3年5月

- 17日 令和3年度第1回臨時社員総会
第2回理事会
- 20日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
特定健康診査等事務説明会
- 25日 学術講演会
「ファブリー病の早期診断の重要性および
CKD領域の最近のトピックスについて」
富山市立富山市民病院 腎臓内科・透析内科 部長 大田 聡
- 26日 監事会

令和3年6月

- 1日 富山県在宅医療支援センター運営協議会
- 7日 県・郡市医師会協議会
- 14日 第3回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 17日 第2回選挙管理委員会（県医）
- 22日 学術講演会
「片頭痛発症抑制のパラダイムシフト：抗CGRP抗体薬エムガルティ」
日本赤十字社 静岡赤十字病院 脳神経内科 部長 今井 昇
市立砺波総合病院 脳神経外科 主任部長 増岡 徹
- 23日 64歳以下の新型コロナウイルスワクチン接種の実施に向けての説明会
- 24日 令和3年度砺波地域MC協議会
第203回富山県医師会定例代議員会
- 28日 令和3年度定例社員総会
第4回理事会

追 悼

今は亡き、福井悟先生を偲んで

河合医院

河 合 康 守

昨年からのコロナ騒動で、砺波市の開業医の親睦会杏和会の開催が中断しました。

いつも宴会の乾杯の挨拶や音頭は最年長の福井先生の役目でしたが、令和2年9月26日亡くなられたことを新聞記事で知りまして、改めて寂しい思いをいたしております。

先生は昭和8年8月27日、砺波市生まれでした。昭和33年鳥取大学医学部をご卒業になり昭和35年7月から砺波厚生病院（現砺波総合病院）に12年間精神神経科に勤務され、昭和47年3月より砺波サナトリウム福井病院を開設され、砺波市で唯一の精神科病院の院長として幅広くご活躍されました。医療分野での永年の公衆衛生へ貢献されたことに対して藍綬褒章や富山県知事表彰を受賞されました。

医師会活動にも活躍され、県医師会の予備代議員や広報委員として、砺波医師会理事としても永年にわたって熱心に活躍されました。

先生はいつもにこやかな笑顔で診療され、患者さんから信頼される先生でした。

息子さんやお孫さんも精神科医として活躍されておられます。

どうか安らかにお見守りください。

合掌



金木精一先生を悼んで

仲 村 洋 一

先生は昭和2年朝鮮(現 韓国)生まれで、昭和24年金沢医科大学付属医学専門部卒業後、大阪大学外科に入局され、昭和39年より日産化学富山病院勤務を経て、昭和45年砺波市で開業されました。以後 地域医療の発展に長年誠意を尽くされました。

医師会活動は住田会長、柴田会長時代に理事、監事として活躍されました。

会員相互の親睦を図る杏和会の世話をよくされ、家族旅行ときに日帰りバス旅行までさせてもらい楽しい思い出となりました。それも前もって御夫婦で下見に行かれていたそうです。

先生は体は大きく心やさしく落ちついておられて、酒は一滴も飲まれず、食事は常に完食のようでした。

学術講演会には熱心に参加され、皮膚科専門のところでもお見かけして感心させられました。

平成21年7月の砺波医師会100周年特集号の中に寄稿があります。「老化と活性化」では、iPS細胞に触れられ、再生医療と人間の長寿化に期待しておられました。

晩年 医院は徐々に診療は縮小していましたが、新しく御長男昌弘氏が「かねきホームクリニック」として新たに出発され、安堵されたことと思います。

令和2年11月7日ご逝去されました。享年93才。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



安念有聲先生を偲んで

ケアポート庄川

杉 本 立 甫

安念先生には私も砺波総合病院も大変お世話になったと思っています。先生が砺波総合病院に勤められたのは砺波厚生病院であった昭和 33 年 6 月からで、その時は内科医として勤務されています。その後病理に転向され、昭和 46 年 12 月から検査科嘱託として週 1 回勤務され、昭和 57 年 1 月より正職員として平成 10 年 3 月定年退職されるまで勤務されています。

私が初めて先生に剖検をお願いしたのは卒業 5 年目の昭和 50 年 6 月砺波厚生病院に大学からの派遣医として来ていた時で「模様物形成による Budd-Chiari 症候群と原発性肝癌を合併した 1 剖検例」としてその年の日本消化器病学会東海北陸合同地方会、翌年の日本肝臓学会総会で発表し、「示唆にとむ肝疾患 53 例」の症例集にも掲載された症例でした。その時大学病院でなくてもこのような地方の病院でもこのような仕事ができるのは大変いいことだと感じたのを思い出しました。

私は昭和 52 年 4 月より砺波厚生病院に就職いたしました但那頃の県内の病院では検査関係、放射線関係の機器購入や医師募集がよく行われるようになり始めた時期でした。砺波厚生病院では昭和 51 年に放射線科を新設し、昭和 54 年に全身用 C T を県下で初めて導入しています。検査部門では自動分析装置が導入され、昭和 57 年 1 月に安念先生が常勤として就職されることが分かった時には「これで必要な基礎の部分は全部出来た、これからは臨床部門が頑張らなければいけなくなった。」と皆で話し合ったことが思い出されます。

そのくらい安念先生の就職が砺波総合病院にとって大きな出来事であったか、以後病院は増改築を繰り返し、平成 16 年にはベッド数 514 床の大きな病院になりました。このようになったのも先生が検査部門で頑張られたことによると考えています。

本当に先生有難うございました。



「コロナ雑感」

住田小児科医院

住 田 亮

コロナという災厄がこの世を覆ってはや一年半。“新型コロナ”という単語が世に出てきた当初は「何だそれ？トヨタの新型車か？」などと突っ込みを入れる余裕がありました。文字通り対岸の火事と思っていたのです。しかし春以降はご存じのように世界中が未曾有の大混乱に陥り、これは“戦時中”かとさえ思う圧迫感を感じました。

この災難を通じて見えたことも多くあります。皆さんも様々な“知見”を得られたと思いますが私が特に強く感じたことは政治家の劣化です。これはもう言わずもがなですね。世界中で政治的なミスはあったでしょうが日本の政治家のダメさというのはトップクラスではないでしょうか？国・国民をどう導くのかという大局観を持たない政権は失敗から何も学ばず、行き当たりばったりで稚拙な政策を繰り返しました。彼らがもし懸命に考えてあのような政治を行っているのなら相当能力が低いし、利益・権益が絡んであの政策なら大悪人ですね。そして野党は相変わらず揚げ足取りの批判ばかりで見ている方がうんざり。うーん、大震災の時にも感じたことですが非常時に活躍できる政治家っていうのは存在しないのでしょうか。最近田中角栄待望論が多く語られていますが私も彼がリーダーだったらどう対応したのだろうと夢想しました。少なくとも今より「納得して」生活しているような気がします。まあ政治家は国民の鏡ということなので我々が劣化していることの証左なのかも知れません。

最近ようやくワクチンで予防もできるようになり夜明けが来るのかも・・・と淡い期待を抱いています。でもライブで騒いだり忘年会などの大規模な会食を楽しんだりする“日常”は戻るのか等々、夜明け後はどんな世になるのか不安と共にある意味怖いもの見たさ的な興味もあります。で、ひょっとすると救世主みたいにすごい政治家がでてくるかも・・・ってこれはムリですね。



砺波での 20 年

市立砺波総合病院 整形外科

高 木 泰 孝

両親は石川県出身ですが、会社勤めをしていたため、徳島で生まれ育ちました。小さい頃、お盆などに祖父母の家に帰省するときは、本州四国連絡橋が当時なかったため、自宅からバスで小松島に向かい、小松島から南海フェリーに乗り和歌山に渡り、南海電車・地下鉄を乗り継ぎ、大阪駅から国鉄の特急列車『雷鳥』で石川県に帰省しました。朝早く自宅から出て、船酔いになりながら、10 時間以上もかかった思い出があります。高校は愛媛県松山市で 3 年間過ごしました。大学受験の際には祖父母、親戚のいる石川県での大学生活を希望し、学生時代を過ごすことが出来ました。

砺波との接点は、大学 3 年生の時、砺波高校で砺波高校ラグビー部と一緒に合同練習したことが最初です。その頃は砺波高校が強く、実際に 1984 年から 1989 年まで 6 年連続で花園（全国高等学校ラグビーフットボール大会）に出場していました。当時、砺波高校ラグビー部監督の蔵谷慶八郎先生には大変お世話になりました。

市立砺波総合病院整形外科に 2001 年（医師 16 年目）の時に赴任しました。当時は北野喜行先生が院長で、医長として赴任しました。残りのスタッフは山田泰士（9 年目）、岡野 智（7 年目）、中村健一（6 年目）久門 弘（3 年目）でした。北野喜行先生は院長業務で忙しく、診療にあまり時間をかけられない状態でした。外来・病棟・手術・救急と忙しく充実した時間を過ごすことが出来ました。

市立砺波総合病院にお世話になり 20 年が経過しました。当院に見学や臨床研修をされた林 寛之先生、菅沼省吾先生、黒田一成先生、藤田健司先生、稲谷弘幸先生、木谷 聡先生、有沢章子先生、中村勇太先生、南保和宏先生が金沢大学整形外科に入局してくれて、北陸の地域医療を支えています。

また一昨年から整形外科のスタッフも 6 名から 7 名に増員となりました。高木泰孝（36 年目）、山田泰士（29 年目）、江原栄文（25 年目）、林 寛之（19 年目）、稲谷弘幸（16 年目）、豊岡和朱（8 年目）、今 武蔵（5 年目）で診療に当たっています。北野喜行先生は 84 歳となりましたが、週に 1 回の外来診療を担当されています。リハビリテーション科は中波 暁（21 年目）が担当しています。20 年前と比較するとスタッフは格段に充実していると感じています。

以前当科で勤務された林 寛之、稲谷弘幸、豊岡和朱、中波 暁が臨床経験を積まれ、人間的にも大きくなり、また市立砺波総合病院に戻って来て、地域医療に当たっています。人とのつながりの不思議さなどを感じている今日この頃です。

今後も専門性を高め、地域医療に貢献したいと思います。

今後とも砺波医師会の先生方のご支援の程よろしくお願い申し上げます。

新しい生活様式

高橋外科医院

高 橋 暢 人

この文章を書いている 2021 年 6 月の段階で、新型コロナウイルス感染が依然として全世界で増加しており、有効な抗ウイルス薬もない状態でワクチン接種が唯一の対抗手段となっています。インフルエンザに比べて強い感染力と 3 % 近い死亡率等からとにかく感染しないための対策がとられることになり、人と人の距離を空ける、マスクを常時着用して外出する、接触しやすい手や人の利用した椅子や器具のアルコール消毒などが行われております。人が集まるイベントの自粛や飲食店でのアルコールの提供を禁止する地域もあり、店では移動経路や座席をパーティションで分けるところも多くなっています。

私自身も感染対策上人の集まるイベントや施設の利用は 2019 年頃から自粛して生活必需品の購入以外で店舗や施設の利用はしないようになりました。とはいえ、家と職場の行き来とたまに買い物に行くだけの生活は思った以上にストレスが溜まるようで昨年、頭痛や運動不足による体重増加と腰痛に悩まされるようになりました。その都度内服薬、外用薬で対応していましたが、胃も荒れ、その割には食べるので体重も落ちない、そのうちまた痛みで薬を飲んで、という悪循環に陥りました。どうにかしなければ。

そのころ家で飼っていたペットのウサギが寿命で亡くなり、精神的に落ちこんでいたところに我が家の次女の激しいオネダリ攻撃で小型犬を飼うことになりました。今までの流れだと殆どペットの世話をさせられるのは私なので、今度はしっかり次女（と他に妻、長女）もペットの世話をする条件で折れました。

子犬が家に来た当初は、犬の体力やフィラリアの予防接種が終わっていない等のこともあり室内で飼っていたのですが、体も大きくなって運動が必要になり散歩が必要になってきました。私以外の家族は学業等で忙しいのはわかっていたので、自然に散歩の付き合いは私の役目となりました。朝と夕の 6 時過ぎに犬にハーネスとリードを装着し出かけます。まだ成犬になったばかりの元気な犬に引きずられるように歩くオッサン…。こうして期せずして毎日一定量の運動をすることになりました。義務だとしてもせめて少しでも楽しんで行こうかということで、最初は近所を回っただけの散歩コースを距離や方向を変えて 1 回 30 分～40 分で行ける所へ行くようにしています。散歩を始めてから、いろいろ発見がありました。犬の散歩をしている人が思ったよりいるんだなあとか、こんなところに通れる道があるんだなあとか。そろそろ散歩を始めて 1 年になるかといったところですが、気分転換になっているようで体調もいいようです。体重もそこそこにはなりました。犬のための散歩でしたが、楽しんで続けていけそうです。

話は変わりますが、今年はチューリップフェアが開催され富山県で初のブルーインパルス飛行パフォーマンスがありました。青空に弧を描く見事なブルーインパルス飛行隊から明日への活力をいただきました。私を含め勇気づけられた医療者は多かったはずです。

難読漢字にチャレンジ

福光あおいクリニック

高 橋 三千代

子供が高校生になり初めて漢字検定を受けました。一緒に問題集を見せてもらおうと意外と読めない漢字があるものだなあと思いました。現代ではスマートフォンなど便利な機械に囲まれて手紙を書いたり、読んだりする機会も減り、読めない漢字の答えがわかるとへえ〜と感心していますが、昔の人に比べて明らかに退化している気がして情けない限りです。本当はジブリ映画の「風立ちぬ」の登場人物のように美しい日本語を自然に使うことに憧れますが、実際に話すとおそらく相手にポカンとされそうで難しいです。時代のせいでしょうか。

それはさておき、難読漢字の世界にしばらくお付き合いください。ヒントも付けます。

- <第1問> 屯…若者がコンビニの前で
- <第2問> 屢々…同じことが何度も
- <第3問> 湯湯婆…ゆゆばあではない
- <第4問> 仙人掌…とげとげちくちく
- <第5問> 甘蕉…点々が出ると食べ頃
- <第6問> 犇めく…字のごとくぎゅうぎゅう
- <第7問> 姦しい…女が集まるとこうなる
- <第8問> 玉蜀黍…意外と生でも食べられる
- <第9問> 翻車魚…丸くて車輪っぽい魚？
- <第10問> 御御御付け…私は里芋のが好きです
- <第11問> 孑孓…水の中で生活する幼虫
- <第12問> 兀兀…地道にこうありたい

では答え合わせです。

- | | |
|-------------|--------------|
| <回答1> たむろ | <回答2> しばしば |
| <回答3> ゆたんぼ | <回答4> さぼてん |
| <回答5> バナナ | <回答6> ひしめく |
| <回答7> かしましい | <回答8> とうもろこし |
| <回答9> マンボウ | <回答10> おみおつけ |
| <回答11> ぼうふら | <回答12> こつこつ |

いかがでしたか？まあすごい、全問正解ですか。流石ですね。こんなくだらない会話をしながら大勢でお酒を飲みたいなあ。

13 代目市川団十郎襲名

市立砺波総合病院 健診センター

瀧 鈴 佳

新型コロナの流行で、昨年から様々なイベントが中止や延期になっています。演劇界では昨年、13代目市川団十郎の襲名が行われる予定でしたが中止となり、襲名がいつになるかはまだわかりません。

私は歌舞伎役者のファンではありませんが、団十郎襲名は日本の重大イベントであり、趣味で長唄を習っていることもあって、襲名披露の舞台は見逃せません。昨年中止になった襲名興行は、5月～7月の3ヶ月の公演予定でした。演目は決まっていたものの、配役は発表されていませんでした。助六と勘進帳は期間内に2回公演される予定だったので、おそらく配役を替えての2回公演だったのでしょう。玉三郎以外の揚巻が誰なのか、興味があります。

助六の芝居の筋は、曾我の五郎時致が父の仇を討つために、伊達男の助六に扮して江戸吉原で喧嘩を繰り返す、仇を探すという荒唐無稽なものですが、要するに助六がカッコ良いところを見せるのが眼目のお芝居であり、話の筋は重要ではありません。助六を引き立たせるため、多彩な登場人物が登場しますが、襲名公演では歌舞伎界のオールスターが総出演し、舞台を盛り上げます。助六や花魁などの衣装の美しさもこの演目の見どころです。

芝居の映像はYoutubeでも見ることができ、2012年の12代目団十郎の助六と、1962年の11代目団十郎の助六がアップされています。

2012年公演の出演者は、団十郎の他に玉三郎、仁左衛門、菊五郎、勘三郎など我々もよく知っている名優たち。カラー映像で、豪華な衣装とお祭り気分を、現代感覚で楽しめます。1962年の公演映像はモノクロですが、美男で名高い11代目団十郎の、これぞ江戸の花といった助六を見ることができます。また、3代目河原崎権十郎の通人、17代目中村勘三郎の白酒売りの名演も貴重です。

今の海老蔵さんは、お父さんよりこの11代目のお祖父さんによく似ており、今度の襲名披露でも、華麗な助六を披露してくれることと楽しみにしています。



肉食於朝食

ものがたり診療所

田 邊 望

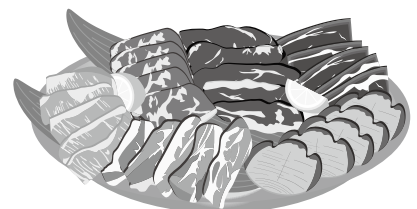
かの瀬戸内寂聴氏が、大変な肉食であることはよく知られている。肉を食べ、酒を飲むことが健康の秘訣だとのことであるが、小生のせり出した腹をじっと見ると、本当にそうなのかと疑いたくなるが、それはまあ良い。ところで、肉食に関して、先日 Cell Reports に面白い論文が掲載されていた。テーマは、タンパク質摂取時間と筋量増加の関係についてである。それによると、マウスによる動物実験ではあるが、1日のタンパク質摂取量が同じ場合、朝に重点的に摂取した方が筋量の増加に効果的であるとのことであった。

著者らは高齢女性を対象とした観察研究も行っており、3食のタンパク質の摂取量と骨格筋指数、握力との関係を調査している。その結果においても、朝食で多くのタンパク質を摂取している高齢女性は、夕食で多くを摂取しているものに比べて、骨格筋指数や握力が高く、1日のタンパク質摂取量に対する朝食での比率と骨格筋指数は正の相関を示すことが明らかとなった。もちろん観察研究であるため、因果関係は不明であるが、人間においても、朝のタンパク質摂取の方が筋肉量の維持や増加に有効である可能性が示された。

また、マウスによる実験ではあるが、朝食のタンパク質摂取による筋量増加には分岐鎖アミノ酸が関わり、朝食で分岐鎖アミノ酸を摂取した方が夕食で摂取するより筋量が増加しやすいこと、マウスの時計遺伝子に変異や欠損を起こすと、朝食のタンパク質摂取における筋量増加効果がみられないことから、タンパク質摂取タイミングによる筋量増加は体内時計を介して引き起こされていることも示されていた。

なるほどである。なぜ小生の腹から筋肉が消え脂肪にまみれているのかその理由が明らかとなった。いやいや、ことはそう単純ではないのであるよ。と言いたいところではあるが、我が身を振り返り、真逆の生活を送っていることに愕然とするのである。

Shinya Aoyama, et al, Distribution of dietary protein intake in daily meals influences skeletal muscle hypertrophy via the muscle clock, Cell Reports, July 06, 2021.



『肛門外科医のハッキョイ 2』

市立砺波総合病院 外科、大腸・肛門科

田 畑 敏

皆様、こんにちは。

大相撲が好きだった肛門外科医の田畑です。

この場をお借りして、日本相撲協会と一部の親方に『物言い』をさせてください。

朝乃山の件ですが、表に出て大騒ぎしていたのは尾○親方と芝○山親方だけに見えました。ここぞとばかりにマスコミを介して朝乃山を口撃していました。タニマチにおごってもらったのなら問題だけど、自分のお金で、キャ○○○に数回行っただけじゃない。週刊誌に載ることより、親方（自分）たちの聴取時に『嘘をついた』ことを問題視して尾○、芝○山両親方は大騒ぎしていたけど、『嘘をついたこと』なんて二人が大騒ぎしなきゃ問題にならなかった内輪話なんじゃないの。相撲界のことを考えるなら、協会の宝とも言える人気力士で大関の朝乃山を彼らが守ってやるべきだったと思います。

大麻や暴力行為に比べたら何の問題もない。罪を犯した訳でもないし。

深読みかもしれないけど、もっと根深い本当の問題があるような気がします。

朝乃山が高砂部屋の力士であることは、皆さんご存じのことだと思います。富山県人で知らないとは問題です。そんなことより僕が問題としたいのは、前出の親方たちが二人とも二所ノ関一門であることです。故前九重親方（千代の富士、高砂一門）が理事選で落選したところから、高砂一門とは確執があったのではないのでしょうか。さすがの八角理事長（高砂一門）もかばいきれなかったのだと推察します。前高砂親方（本名は長岡末弘、あだ名は大ちゃん、近畿大学出身で朝乃山の先輩）まで相撲協会をクビにしまったのだから、ビックリしました。要するに、（おそらく）ただの高砂一門イジメなのです。

さらに、朝乃山問題の直前に竜電（高田川部屋、二所ノ関一門、輝の兄弟子）が問題を起こして、結局3場所謹慎となりましたが、あのお二方（尾○、芝○山）は、朝乃山問題のとき、二所ノ関一門の不祥事をもみ消すかのように鼻息が荒かったように思えました。僕に言わせると朝乃山よりヒドイ問題だったと思うのですが…。お二人の思惑通り（？）で、朝乃山の問題が浮上した瞬間に竜電問題は忘れ去られてしまったように思います。

深読みしすぎでしょうか。ヒガミ根性でしょうか。

それにしても北陸勢はどうなっているのだろう。

朝乃山は謹慎1年で三段目まで転落予想、遠藤（追手風部屋、時津風一門）は休場、輝（高田川部屋、二所ノ関一門）は負け越し、炎鵬（宮城野部屋）は十両でも負け越し。

また、両横綱がモンゴル出身力士となって、しばらくモンゴル勢の時代が続くようです。

今はとにかく、日本人、とくに北陸勢の巻き返しを期待したい！

本当は、今でも大相撲が大好きな肛門外科医田畑でした。

最近思うこと。

津田産婦人科医院

津 田 博

会員の皆様コロナ禍の中どのようにお過ごしでしょうか。

周産期で最近の話題について気になることを書こうと思います。

少子化は 2016 年に初めて 100 万人 / 年を割り込み、2019 年に 86 万 5 千人と 90 万人 / 年を割り込む、86 万ショックと呼ばれました。

砺波医療圏（砺波、南砺、小矢部）でも少子化は進んでおり、2015 年は 918 人、2019 年は 685 人に減少、233 人減り 1 クラス 40 人とする 6 クラスが無くなったことになります。（学校 3 校分）

少子化が問題になっている中、新型コロナウイルスが流行し妊娠を控える方が増え、分娩予約は地方では 37%、都市部では 24% 減少し、婚姻率も昨年から 13% も減少し戦後 2 番目の減少率になっています。

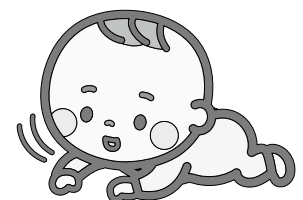
今年の出生数は 77 万人台になるのではと予想されています。

コロナ収束後、ある程度回復すると思うが、晩婚化もあり少子化の負のスパイラルに陥っていると懸念されます。

もう一つ気になるのが、2024 年度から本格的に始まる医師の残業時間を規制する「働き方改革」です。開業医には関係が無いように思われるが、大学からの外来や当直の派遣がなくなる可能性もあり、忙しさに拍車がかかりお産する施設はさらに減っていくのではと危惧されます。

2017 年はお産のできる施設は 2273 施設、1999 年の 6 割程度になっているのに、「働き方改革」が始まると、1 施設 12 名の医師が必要となりさらに集約化しないとできません。全面的に医師の残業を規制される 2036 年までのお産できる施設は半減することが予想されています。

今後「安心・安全」のお産をするにはどうしたらよいのでしょうか。あと何年お産ができるかわかりませんが、体力が続く限り頑張ります。



2020 東京オリンピック

津田産婦人科医院

津 田 恵

世間がコロナ一色となってはや1年数カ月が過ぎました。2年前にはこんな世の中になるとは想像だにせず、東京オリンピックのチケット争奪戦に参加していました。日本でオリンピックが開催されるからには会場で生の迫力が見たいとチケットの販売サイトから購入に挑戦しました。値段もかなり高額で躊躇したところもありましたが、一般的に人気の種目のチケットをいくつか申し込みました。いくつも当たって高額支払いになったらどうしようなどと心配しておりましたが、心配無用で全滅でした。当時は次にどのような手段でチケットを手に入れようかと考えていましたが、今となっては払い戻しなどの無駄な作業をしなくて済んだので外れたことに感謝しているところです。

私の中のオリンピックに対する盛り上がりはだいぶトーンダウンしましたが、先日陸上男子100mのオリンピック選考会をテレビで見て、もう一度私の気持ちを盛り上げてくれるようなすばらしいレースであり、やっぱりオリンピックって特別なんだと再認識しました。

東京オリンピックまで2週間で切りましたが、問題が次から次へと噴出しているようです。いろいろな意見はあるようですが、開催されるからには選手たちが自分の力を発揮し悔いのないようにしていただき、オリンピックのせいでコロナ感染症が拡大したということがないように、万全の対策で開催されることを願っています。私は自宅のテレビで選手たちを応援したいと思います。家の中では誰に気兼ねすることなく大きな声で応援できますし、お酒も飲めますからね。

この原稿を提出しようとしたとき、7月12日から東京に4度目の緊急事態宣言が発令されることが決定し、オリンピックは1都3県と北海道では無観客で行われることが決定しました。



老後の趣味

市立砺波総合病院 病理診断科

寺 畑 信太郎

2020 年度で定年退職の予定だったのですが、仕事柄後任がなかなか決まらず昨年末、院長と協議の上、定年延長で引き続き勤めることになりました。

散漫な多趣味のなか、生き物が好きで、以前よりらんちゅうを含む金魚やオヤニラミ、四万十川に生息するアカメ、ちょっとマニアックなタイワンキンギョやチョウセンブナなどの淡水魚、その他テトラ、レインボーフィッシュ、コリドラスやプレコなどの熱帯魚（以前はもっといろいろ飼っていました）、カメはニホンイシガメ一筋（幼少の頃はミドリガメの愛称で親しまれているが、大きくなったものが捨てられ、全国的に猛烈に繁殖し問題となっているミシシippアカミミガメは断固として飼わない）で、カエル（ベルツノガエル：アマゾン原産、最近では国内ブリードものが出回っており、3 年ほど飼っている。）やメダカ（最近では品種改良が進み七色や銀鱗、メタリック、多色模様、出目、ヒレ長やバルーン体型のものなど 1 匹ウン万円もするものなど多彩）など混乱した状態の中、4～5 年ほど前から錦鯉を少しずつ飼い始めました。錦鯉に関しては高校 2 年の時に金沢に父が家を建てた際、狭い庭に坪池を作ってもらい錦鯉を飼ったことがあったのですが、ネコやイタチ？に襲われたり、帰省で留守にしていた際に近所の子供達に遊ばれ？襲われ？たりして全滅したことで、がっかりしてやめていました。砺波に家を建てた折、洗濯干し場の延長、ビアガーデン設置の予定であった屋上がらんちゅう飼育から錦鯉飼育にシフトしていったため防水シートをはって作った池や人間用の人工プールを転用したりなど養魚場状態となってしまう、ろ過の予備として購入した水草の繁茂（魚たちの排水で栄養満点の土壌が形成され、ちょっとした今はやりの SDGs 状態）する状態になりました。週末は鯉仲間との他愛のないおしゃべりも楽しく（多くは後期高齢者を含む自分より年上の人達）、当初品評会などとは無関係で、少しずつ錦鯉の飼育のコツや魚の見方を磨いていたのですが、この状態に変化をもたらしたのが、昨年秋にたまたま購入した 4 匹の鯉を、昨年 11 月、第 21 回北陸地区総合錦鯉品評会に出品したところ、30 部（体長 26～30cm まで）の大正三色が各部総合優勝（通称部総合：大きさ別の中で、品種を問わず最もよい鯉に与えられる賞）となり、大きなトロフィーをもらうことになり、残る 3 匹も種別優勝をもらってしまいました（取り扱い業者の目利きがよかった）。その後ヤフオクで購入した鯉を今年の 3 月に行われた第 37 回全国若鯉品評会に出したらと薦められ、出品したところ、18 部（体長 15～18cm まで）丹頂部門で準優勝に入賞、

勢いはとまらず今年の5月に魚津の有磯ドームで行われた第16回富山県若鯉品評会で、またもや部門別総合優勝を25部(体長21～25cmまで)紅白と40部(体長36～40cmまで)紅白の2匹(その他種別では優勝、次席、準優勝の順で、優勝9匹、次席6匹、準優勝4匹:、25匹出品の19匹が入賞)で獲得し、40部の紅白が大会No.2の若鯉総合優勝(魚津市議長賞)となる大変なことになりました。部総合ですら一度もとれない人も多いのだとうるさく力説され、鯉仲間からはやっかみにも似た沢山の祝辞をいただき恐縮している次第で、舞い上がってこれからもしばらくこの生活は止まりそうもなく、われながら心配しています。



新入会および開業の挨拶

いなむら内科

稲 邑 克 久

みなさま初めましてこの度砺波医師会に入会させていただきました、稲邑克久（いなむらかつひさ）と申します。

砺波総合病院では16年間お世話になりありがとうございました。

開業後も引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

開業にあたりこの場を借りて自己紹介させていただきます。

昭和46年（1971年）11月27日に石川県羽咋市に生まれました。

生下時に全く目を開けず、両側の先天性眼瞼下垂でした。当時ラジオで講演していたという帝京大学眼科学丸尾教授のところに行き、2歳、3歳、12歳の時に手術を受けています。眼瞼への局所麻酔は痛かったですが、行きの夜行列車、帰りの飛行機とサンシャイン60は楽しかった思い出があります。その後、羽咋小学校、羽咋中学校、羽咋高校、富山医科薬科大学と進学し、北陸で純正培養されています。一度は表日本で暮らしたかったなと思っていますが、多分水が合わなかったでしょう。高3の時、予備校夏期講習で2週間ほど東京で一人過ごしましたが、その後1ヶ月寝込みました。ちなみに能登と砺波は比較的親和性が高いのか大変落ち着きます。

部活は小中は剣道、高校はバレーボール、大学は弓道部とフラフラしていました。

最近では、山岳トレッキングとスキーをしています。去年は白馬岳に登ってきました。

大学卒業後第一内科に縁をいただき入局、金沢大学附属病院、富山県立中央病院、黒部市民病院、加登病院（現小松ソフィア病院）、有松中央病院（現金沢有松病院）、金沢市立病院、福井赤十字病院にて勤務させていただき、10年目で市立砺波総合病院に赴任致しました。そして26年目の節目で開業と相成りました。

$3^2 + 4^2 = 5^2$ という切りの良いところでうまいことしたつもりです。

砺波総合病院ではサマリ数は延べで5172件、死亡退院424例、剖検数55体でした。

消化器内視鏡医として北陸支部評議員、学術評議員の資格も得て、去年には北陸セミナーの講師も務めさせていただき勤務医としてやり残したことはないと感じています。

これからは患者さんにより一層寄り添っていきたいと思っています。

砺波医師会誌 第 214 号

編集後記

コロナ禍も2年目となりました。この間数々のイベント、会合が中止またはリモート開催となり、学会も最近はほとんどが会場＋Web開催となりました。実際視聴してみると、従来の会場形式と比べスライドは見やすく演者、座長の声もよく聞こえ、しかも自宅でリラックスでき非常に快適です。とくに内視鏡の教育講演会などは画像はWebの方が細かい部位まで鮮明に見えます。(質問、討議は、いまひとつ盛り上がりませんが。)

時間と交通費の節約にもなり結構なことですが、1人で長時間視聴しているのもなかなかつらいもので、友人にも会えず、学会特有の開催地探訪(観光?)、アフターファイブがないのもなんとなく寂しいような・・・。

COVID-19感染予防対策としてワクチン接種が行われていますが、コロナ感染症が早く収束に向かい従来の学会会場への直接参加ができればと願っております。その時でもWeb出席も選択できる形式を残してくれたらいいな。

柳 澤 伸 嘉 記

(広報委員) 豊田 葉子、津田 博、山田 泰士、柳澤 伸嘉